

# 総合解析方針の基本的考え方

- 総合解析では、大きく分けて3つのアウトプットを想定し、いずれも過去50年間の基礎調査データをベースとして、他主体による自然環境調査や既存の社会経済データ等も加えて、可能な解析を検討する。

①日本の生物多様性の現状や特徴、過去50年間の変化を、視覚的・直感的に分かりやすく示す（例：地図、グラフ、模式図）。

- 一般向けの普及啓発素材の提供
- 後述②③のベースデータ。
- 今後の基礎調査（特にセンサス目的）の初期値・ベースライン。

②過去50年間における直接要因の変化を踏まえ、保全・再生などの対策の効果などを明らかにする。

- 一般向けの普及啓発素材の提供。
- 過去施策の効果検証
- JBOや国家戦略の指標の補完。

③今後想定される新たな環境課題に対して必要なデータや解析結果を示す（EBPM）。

- 新たな社会・政策課題と密接に関わる解析。
- 基礎自治体への情報提供（地域戦略・都市計画など）